

令和6年度 教職課程に関する自己点検・評価結果

福井大学総合教職開発本部附属教職課程・教員免許センター

・自己評価の基準 A: 適切に実施している、 B: 概ね実施している、 C: 十分に実施していない、実施していない

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部局	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点到る状況
①教育理念・学修目標	①-1 教員の養成の目標及び目標を達成するための計画の策定状況	<input type="checkbox"/> 当該目標および計画が具体的かつ明確な形で設定されているか。 <input type="checkbox"/> 当該目標および計画において、学生や採用権者の意見、福井県教員育成指標等との関係が考慮されているか。 <input type="checkbox"/> 【教・教職院】当該目標および計画において各3ポリシーとの関係が考慮されているか。	教育学部	A	・「福井大学教育学部教員養成スタンダード」2024年度版 ・カリキュラムマップ ・福井大学HP「教員の養成の状況についての情報」 https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/obligation/information/	本学部は教員養成カリキュラムの基本となる理念と、学生に培ってほしい力、学習の評価方法をまとめた教員養成スタンダードを毎年度発行している。福井県教員養成指標を毎年度確認しながら、理念とカリキュラム特徴、CP, DPとの関わり、目指すべき目標、学習評価方法をまとめたものである。また、カリキュラムマップにおいては、各科目がCP, DPのどの科目を担保しているかを詳細に可視化している。
			工学部 工学研究科	A	・福井大学HP「教員の養成の状況についての情報」 https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/obligation/information/	
			連合教職開発研究科	A	・連合教職開発研究科HP及びパンフレット ・連合教職開発研究科CP、DP ・連合教職開発研究科運営協議会要項 ・福井県教員育成指標協議会開催要領及び委員名簿	
	①-2 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	<input type="checkbox"/> 当該目標および計画の見直しに資する、学生の学修成果の把握等が行われているか。 <input type="checkbox"/> 上記の学修成果の把握等および社会情勢や教育環境の変化などを踏まえた、当該目標および計画の適切な見直しが行われているか。	教育学部	A	・学修成果の達成状況レポート（レーダーチャート）サンプル ・令和6年度後期_授業評価アンケート回答集計結果 ・教員養成フラッグシップ大学コンセプト及びカリキュラム概要	学修成果の把握については、令和6年度までは可視化の仕組みに課題があったが、令和7年度より学生個々の到達度を可視化するレーダーチャート図を導入している。DPの達成状況や教職科目の修得状況を可視化することにより、目標に対する学習成果の進捗を学生本人および大学が把握できる体制を整えた。 令和6年度には大規模なカリキュラム改定を実施を行い、教員養成フラッグシップ大学として、時代に即した「STEAM総合探究」や「地域実践演習」、「心理発達支援プロジェクト」といったフラッグシップ科目を新たに取り入れ、さらに理論と実践を高度に往還するプログラムへと見直しを図った。
			工学部 工学研究科	A	・福井大学HP「教員の養成の状況についての情報」 https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/obligation/information/ ・工学部教育実習委員会議事要旨	
			連合教職開発研究科	A	・カリキュラム・学習状況調査結果	
					教育実習成績評価等について、工学部教育実習委員会で把握している。工学部は令和5年度に文科省より教育職員免許法施行規則の改正の通知があり、令和6年度変更届にて、高校一種（理科）について教科専門科目改正区分変更を行った。工学研究科は令和2年度に改組による大幅なカリキュラム改定後は見直しはない。	

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部局	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況
	②-1 複数の教職課程を通じた授業科目の開設状況	<input type="checkbox"/> 複数の教職課程間で共通開設される授業科目の開設状況は適切か。 <input type="checkbox"/> 当該科目は、開設に責任を負う学部・研究科の強みや特色を生かして適切に行われているか。	教育学部	A	・共通開設科目一覧（教育課程の変更届抜粋）	教員養成のノウハウを持つ教育学部の強みを活かし、工学部に一部共通開設をしている。免許希望者の人数と適切な科目配置を鑑み、時間割の重なりを調整して共通開設している。教育学部の資源を有効に活用しながら、学生の履修状況に合わせた適切な科目提供を行っている。
			工学部 工学研究科	A	・教育課程表 ・シラバス	「理科教育法」等の授業では、工学部の学生が教育学的視点から教授法を学ぶ一方、教育学部の学生は工学部の学生と協働しながら高度な実験に取り組むなど、双方の専門性を活かした実践的な学びが展開されている。
	②-2（項目4は各部局該当あれば） 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	<input type="checkbox"/> ICT環境（オンライン授業含む）は整備されているか。 <input type="checkbox"/> 模擬授業用の教室は整備されているか。 <input type="checkbox"/> 関連図書は整備されているか。 <input type="checkbox"/> その他、教職課程の実施に必要な施設・設備が整備されているか。	教育学部	A	・施設設備一覧（図書の状況、実技・実習施設・設備の活用状況、ICT活用指導力充実にに向けた環境整備等の取組状況）	現在、オンライン授業は一部の授業に開講している。ZoomやGoogleClassroomからオンライン授業可能である。また、大学構内はWi-Fiを接続することが可能であり、タブレット端末で書きながら、模擬授業を参観することも可能である。 ・総合教職開発本部棟1階に模擬授業用教室、そのほか、教育系1号館に8教室、個別机の整備がされている。また、各教室で黒板等が設置されているため、模擬授業が可能である。 ・資料のとおり、学習指導要領解説、教科書をはじめ、図書について、十分整備されている ・このほか、実験施設等十分な設備が整備されている。
			連合教職開発研究科	A		院生室及びコラボレーションホール1、2、3を整備している

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部署	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況
	②-3 教育課程の体系性および充実・見直しの状況	<input type="checkbox"/> 法令および当該目標・計画に対応し、必要な授業科目が開設されているか。 <input type="checkbox"/> 授業科目開設に当たり適切な役割分担が図られているか。 <input type="checkbox"/> 本学教育課程レビュー「4. 教育課程の編成が体系性を有しているか※」の結果がA評価か。(※点検項目：カリキュラム・マップ/カリキュラム・ツリー/ナンバリング/履修モデル/その他体系性を有していることが確認できる資料) <input type="checkbox"/> 教育課程の編成が体系性を有しているか確認し、教育課程の充実を図り適切な見直しを行うための仕組みが整備されているか。 <input type="checkbox"/> 学修成果や自己点検・評価等を踏まえて教育課程の充実が図られ、適切な見直しが行われているか。	教育学部	A	<ul style="list-style-type: none"> 課程認定変更届R6新旧対照表 カリキュラムツリー 令和3年度教育内部質保証自己点検・評価（プログラム・レビュー）結果 複数免許取得履修モデル(2024 (R6)入学生)_20240326版 令和6年度後期_授業評価アンケート回答集計結果及びフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 教員免許法、教員免許法施行規則、教職課程認定基準を確認し、教員養成フラッグシップ「指定大学」の教員免許法施行規則に即し、資料の課程認定変更届のとおり、開設されている。 科目の担当については、教員の業績を確認し、理論に精通した教員と、実務家教員がそれぞれ分担、あるいは共同で担当することで、理論と実践のバランスが取れた教育体制を構築している。 教育課程レビュー「4」でA評価となっている。 カリキュラムツリー、カリキュラムマップで体系性が確認できている。 R6年度以降、年1回以上、カリキュラムの修正等について確認し、最終的に教授会で審議されている。 履修モデルについても、学生に示されて、体系的に履修できるように指導している。 授業評価アンケート結果を受け、また、モニタリングでの評価結果を受け、見直しが必要になった場合には、学部内で見直しを検討している。
			工学部 工学研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 福井大学HP「教員の養成の状況についての情報」 https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/obligation/information/ R3年度教育内部質保証自己点検評価（プログラム・レビュー）結果 	工学部及び大学院工学研究科教育委員会及び工学部教育実習委員会等において、定期的に教育課程の見直しを実施している。
			連合教職開発 研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> シラバス 連合教職開発研究科運営協議会要項 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教職開発専攻R7年度認証評価結果 	
	②-4 ICTの活用指導力など各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	<input type="checkbox"/> ICT活用指導力やデータリテラシーの向上など各科目を横断する重要な事項に関する科目が適切に配置されているか。 <input type="checkbox"/> 上記の科目間の役割分担が適切に図られているか。	教育学部	A	<ul style="list-style-type: none"> 「ICT活用教育概論」シラバス 教科指導法シラバス（ICT活用） 	関連科目を体系的に配置している。基礎的な知識とスキルの習得を目的とした「ICT活用教育概論」を必修科目として設置し、情報技術を専門とする教員が理論から活用法までを包括的に指導している。また、各教科指導法においてもICTを効果的に取り入れた指導法を学習している。（ICTを取り入れた授業構成、ICT機器操作）さらに各教科の実践へとつなげるため4年次の「教職実践演習」ではICTを用いた模擬授業を必須化している。ここでは各教科教育の専門教員が、それぞれの教科の特性に応じた効果的なICT活用法を指導しており、技術的な基礎教育と教科ごとの実践的教育が、教員の専門性に基づいて適切に役割分担されている。
			工学部 工学研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程表 シラバス 	例：「ICT活用教育概論」ICTを活用した授業の事例の検討等
			連合教職開発 研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> シラバス 	

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部局	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況
②授業科目・教育課程の編成実施	②-5 学生の履修状況の適切な管理	□履修登録の上限の制度（CAP制）を設定しているか。 □上記の取組みは1単位あたりの学修時間を確保するうえで有効に機能しているか。	教育学部	B	・教育学部学生の各学期における履修単位数の制限に関する申合せ ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(9)学生アンケート分析による学修状況・学修成果の状況の結果 ・令和6年度後期_授業評価アンケート回答集計結果及びフィードバック	履修登録の上限については、「教育学部学生の各学期における履修単位数の制限に関する申合せ」に基づき、CAP制を厳格に運用している。登録期間終了後には、上限を超過して登録を行っている学生に対し、科目の削除について指導をしている。 授業評価アンケートの結果によれば、学生の時間外学習時間は1週間あたり1科目平均2.45時間となっており、標準的な時間数4時間を下回っていることが課題となっている。
			工学部 工学研究科	A	・工学部学生の各学期における履修単位数の制限に関する取扱い	
			連合教職開発 研究科	A	・履修規程	
②-6 個々の授業科目の到達目標の設定状況および個々の授業科目の見直しの状況	□個々の授業科目の到達目標の設定において、法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領および教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか。 □本学モニタリング「(9)学生アンケート調査結果分析による学修状況・学修成果状況が良好であるか確認する※」の結果が2項目とも「良好である」か。（※点検項目：学生に対するアンケート調査の結果を分析することにより、学修の状況や学修成果の状況が良好であるか、確認する。） □個々の授業科目の到達目標の設定状況を確認し、科目の充実を図り適切な見直しを行うための仕組みが整備されているか。 □学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて授業科目の充実が図られ、適切な見直しが行われているか。	教育学部	A	・教科指導法科目シラバス（学習指導要領記載あり） ・教職課程コアカリキュラム対応表 ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(7)シラバス入力状況の結果及び根拠資料 ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(9)学生アンケート分析による学修状況・学修成果の状況の結果 ・令和6年度後期_授業評価アンケート回答集計結果及びフィードバック	・教育法の科目において、学習指導要領を教科書・参考書にして、授業を行っている。また、教職課程コアカリを事前に網羅していることを確認している。 ・モニタリング(9)において、2項目とも「良好である」となっている。 ・コアカリ等に基づき、各科目の到達目標が適切に設定されるよう、各担当教員が毎年度、コアカリ等に照らし、到達目標の妥当性を確認している。さらに、教育課程委員会において総合的な確認を行っている。 ・各担当教員及び教育課程委員の自己点検により、改善が必要な場合は見直しを行っている。	
		工学部 工学研究科	B	・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(9)学生アンケート分析による学修状況・学修成果の状況の結果 ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(7)シラバス入力状況の結果	工学部における教職課程については、半数特例を適用した履修コアカリキュラムの要件を確実に満たせるよう、科目配置を行っている。選択される各科目がコアカリの到達目標を網羅できるよう設計している。「コアカリ対応表」の作成については現在着手している段階であるため、▲評価としている。 モニタリング（7）にて、R4以降、教育委員会にて毎年シラバスチェックを実施し、その結果を学科・コースにフィードバックしている。一部教職課程科目がチェック対象のため今後要改善。	
		連合教職開発 研究科	A	・シラバス ・カリキュラム・学習状況調査結果		
②-7 アクティブ・ラーニングやICTの活用などの導入状況	□授業科目の到達目標に応じ、アクティブラーニングやICT活用などの手法が導入され、主体的で多様な学びをもたらす工夫が行われているか。	教育学部	A	・シラバス記載のアクティブラーニング活用状況	令和6年度開講科目682科目のうち、アクティブラーニング科目571科目で83.7%が導入されている。 また、「ICT活用概論」の授業では、ICT活用しての授業方法、情報通信機器の操作、校務の活用方法を学び、教職実践演習では電子黒板、iPad等、ICTを使った模擬授業を学んでいる。	
		工学部 工学研究科	A	・シラバス記載のアクティブラーニング活用状況	例：「理科教育法Ⅰ」予備実験、模擬授業等の実施等 例：「ICT活用教育概論」ICTを活用した授業の事例の検討等	
		教職大学院	A	・シラバス記載のアクティブラーニング活用状況		

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部局	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況
	②-8 シラバスの作成状況	<input type="checkbox"/> 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学習と事後学習の内容等が明確に記載されているか。 ＊本観点は、 本学モニタリング「(7) シラバスの入力状況」の結果 に加え、「教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係」の記載状況を合わせて点検評価。 <input type="checkbox"/> 【教】教職科目および教科教育科目において必要な学習指導要領および教職課程コアカリキュラムとの対応が記載されているか。	教育学部	C	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(7) シラバス入力状況の結果及び根拠資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・「(7)シラバスの入力状況」について96.0%が適切に記載されていることを確認済み。 ・各科目のシラバスには、教職員免許法施行規則（第2条～第5条）に対応した「科目授業種別」を明記しているため、教員養成の目標達成に向けた各科目の位置づけが一目で分かるようになっている。その位置づけに基づき、科目の目的に沿った到達目標等設定しており、法令上の区分と連動したシラバス作成を徹底している。 ・コアカリとの対応について、現時点でされていないが、ナンバリングを用いて、対応予定である。
			工学部 工学研究科	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(7) シラバス入力状況の結果 	モニタリング（7）では一部教職課程科目がチェック対象外のため今後要改善。
			連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連合教職開発研究科HP及びパンフレット ・連合教職開発研究科CP、DP ・シラバス 	
	②-9 教職実践演習及び教育実習等の実施状況	<input type="checkbox"/> 教職実践演習は大学の主体的な関与のもと適切に行われているか。 <input type="checkbox"/> 教育実習（学校体験学習含む）は事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与のもと適切に行われているか。	教育学部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習概要（1. 事前及び事後の指導の内容等、教育実習の内容及び成績評価等、教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等、2. 教育実習におけるハラスメントの防止について、3. 学校体験活動・学校支援ボランティア活動等の取組状況） ・教職実践演習及び教育実習等の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習は大学での主体的な関与のもと行われている。前期は教科個人誌を各教科で作成し、後期は他学年とのグループ学習を行いながら教職学習個人誌を作成している。 ・教育実習については、学内でのガイダンスおよび事前指導により学生の心構えをさせ、実習期間中も実習先教員と連携しながら、大学教員が直接「学習指導案」の添削指導等を行う体制を整えている。実習後には、大学において省察授業を実施している。 ・学校体験学習においても、体験先に任せきりにすることなく、事前に活動内容の聴き取りを行い、事後にはレポート等を通じて体験内容の妥当性を確認している。
			工学部 工学研究科	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習概要（1. 事前及び事後の指導の内容等、教育実習の内容及び成績評価等、教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等、2. 教育実習におけるハラスメントの防止について、3. 学校体験活動・学校支援ボランティア活動等の取組状況） 	教職実践演習は、これまでの教員免許取得に係る履修の集大成の科目であり、大学で主体的に行っている科目である。教育実習について、実習先に任せきりにするのではなく、事前に大学にて指導案作成の指導を行っているが、実習中の指導案作成の指導等は実習先指導教員が行っているため、改善が必要である。
			連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連合教職開発研究科「長期インターンシップの手引き」 	

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部局	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況
③-1 成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況		<input type="checkbox"/> 成績評価に関して、全学的に基準が策定され、成績評価基準に基づく標語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係が明らかにされているか。 <input type="checkbox"/> 本学教育課程レビュー「15. 成績評価基準を策定しているか、また、それを学生に周知しているか※」の結果がA評価であるか。(※点検項目：成績評価基準がDPと整合性を持って定められている／成績評価基準がCP中の「学習成果の評価の方針」と整合性を持って定められている／成績評価基準が組織として策定されている／成績評価基準を学生に周知していることが、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等によって確認できる)	教育学部	B	<ul style="list-style-type: none"> ・福井大学における成績評価基準等に関する規程 ・福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン ・教育学部CP ・成績評価基準 到達目標と達成水準関係 ・令和3年度教育内部質保証自己点検評価（プログラムレビュー）（15）成績評価基準の策定及び周知の結果 	<p>本学では、成績評価に関する全学的な基準を定め、評語と評価方法を教員に明示しており、学部CPにおいてもこのガイドラインに沿って行うことが示されている。</p> <p>本学部では、各授業科目のシラバスには到達目標、成績評価方法を記載している。成績評価基準は、教員養成スタンダード中にあり、科目毎の詳細な明示は一部に留まっている。</p> <p>令和3年度のレビューでは、B評価となっているが、「成績評価基準がCP中の「学習成果の評価の方針」と整合性を持って定められている」部分が改善されているため、達成していると言える。</p>
			工学部 工学研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> ・福井大学における成績評価基準等に関する規程 ・福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン ・R3年度教育内部質保証自己点検評価（プログラム・レビュー）結果 	福井大学における成績評価基準等に関する規程を学生便覧及びUNIVERSAL PASSPORT等にて公開している。
			連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> ・福井大学における成績評価基準等に関する規程 ・福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン ・福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科（連合教職大学院）授業科目の評価の方法に関する内規 ・長期実践研究報告の評価について 	
③学修成果の把握・可視化	③-2 成績評価に関する共通理解の構築、および成績評価の状況	<input type="checkbox"/> 同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか。 <input type="checkbox"/> 本学モニタリング「(8)成績分布※」の結果が「適正である」か。(※点検項目：科目ごとの成績分布を確認し、以下の場合には必要に応じて教員に検討を依頼する。 ①複数のクラスに分けて開講される科目についてクラスによって成績分布に違いが目立つ場合、②不可の割合が他と比べ極端に高い授業科目、③秀の割合が他と比べ極端に高い授業科目) <input type="checkbox"/> 各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・標語に反映することができていること、公正・透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法や配点基準があらかじめ明確になっているか。	教育学部	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(8)成績分布根拠資料 ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(7)シラバスの入力状況、(8)成績分布の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学部の専門科目1科目のみクラス分けをしており、事前に評価基準について決め、第1回目講義時に説明している。 ・モニタリング(8)の結果は「適正である。」となっている。 ・成績評価方法と成績評価割合を明記している。評価基準は、教員養成スタンダード中にあり、科目毎の詳細な達成水準を測定する手法や配点基準は一部に留まっている。シラバスに達成水準が示されている科目は一部に留まっており、公正・透明な成績評価のため、今後改善が必要である。
			工学部 工学研究科	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(7)シラバスの入力状況、(8)成績分布の結果 	モニタリング（7）では一部教職課程科目がチェック対象外のため今後要改善。
			連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> ・福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科（連合教職大学院）授業科目の評価の方法に関する内規 ・長期実践研究報告の評価について 	

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部署	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況
	③-3 教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況	<input type="checkbox"/> 教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されているか。 <input type="checkbox"/> 【教】教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか。	教育学部	A	<ul style="list-style-type: none"> 福井大学教育学部教員養成スタンダード 2024年度版 履修カルテの活用方法・状況 	<ul style="list-style-type: none"> 教員養成スタンダードより、めざすべき目標、学習成果物、評価基準等が設定され、示されている。 学生自身が自らの学び全体の省察を通して、身につけた教員としての資質能力について省察する「学習個人誌」を履修カルテとして運用している。1年次から毎年、その年度に履修した教職科目を通して学び培った資質能力について自己評価し総括する「個人最終報告書」の作成を行い、翌年度の異学年協働学修の場で本報告書を活用し省察的探究を重ねている。こうした省察を3年次まで積みあげた上で、4年次の教職実践演習において、3年分の「個人最終報告書」を踏まえ、それまでの教職課程全体を振り返り、本学の「教員養成スタンダード」に示された「学生が目指すべき目標」に照らしながら、それらを自身の成長のライフストーリーに位置付けた「教職学習個人誌」を作成・提出することを、単位修得の条件としている。
	④-1 教員の配置の状況および教員の業績等	<input type="checkbox"/> 教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか。 <input type="checkbox"/> 授業担当者がその授業科目を担当するにふさわしい研究業績を有しているか。 <input type="checkbox"/> 学校現場等での実務経験を有する者が教職課程もしくは学生の指導に関わっているか。	教育学部	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度教職専任教員一覧 令和6年度課程認定変更届新旧対照表 令和6年度実務経験を有する教員の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 以下の資料より、毎年度充足を確認している。 研究業績は、採用時に確認し、教職科目については、新規に科目を担当する際、教育研究業績書を提出いただいている。 実務経験を有する教員が58名中16名いる。
			工学部 工学研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 福井大学HP「教員の養成の状況についての情報」 https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/obligation/information/ 	
			連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 連合教職開発研究科HP及びパンフレット 連合教職開発研究科CP、DP 	
			工学部 工学研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 福井大学HP「教員の養成の状況についての情報」 https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/obligation/information/ 	
			連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度課程認定変更届新旧対照表（必要教職専任教員数含む） 令和6年度実務経験を有する教員の状況 	

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部署	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況
④教員組織	①-職員の配置状況	<input type="checkbox"/> 教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置しているか。	教職課程・教員免許センター	A	・教職課程・教員免許センター所掌事務組織	総合教職開発本部 免許センター1名（教務課兼務）
	②-3FD・SDの実施状況	<input type="checkbox"/> 教職課程を担う教員及び事務職員として望ましい資質・能力を身につけるためのFD・SDが実施されているか。 <input type="checkbox"/> 上記のFD・SDが望ましい資質・能力を身につけるうえで有効に機能しているか。	教職課程・教員免許センター	B		教員免許センター事務担当者として、大学教務実務研究会が実施する教員免許事務担当者の勉強会に7回参加し、教職課程を担うために、学力に関する証明書や法律や課程認定申請手引きの内容についての講習を受講した。
			教育学部	A	・FD/SD実施計画	FDやSDは適切に実施されており、特に昨今は、学生に接することの多い教員や職員にとって有意義な機会となっている。R6は、主に学生への支援や関わり方（講義や演習において配慮を要する学生への対応、課題の示し方、連絡方法など）具体的な方途を学ぶことができた。（開催日：2024年9月6日「授業のユニバーサルデザイン」講師：林臨床心理士・保健管理センター）
			連合教職開発研究科	A	・令和6年度FD/SD研究会年間計画	
	④-4 授業評価アンケートの実施状況	<input type="checkbox"/> 個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会等で活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか。 <input type="checkbox"/> 本学モニタリング「(9)学生アンケート調査結果分析による学修状況・学修成果状況が良好であるか確認する」の結果が2項目とも「良好である」か。(再掲 2-⑥)	教育学部	A	・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(9)学生アンケート分析による学修状況・学修成果の状況の結果 ・令和6年度後期_授業評価アンケート回答集計結果とフィードバック	・前期/後期ともに授業評価アンケートを作成し、実施。その後、フィードバックや改善点が見られた場合は、改善を行っている。 ・モニタリング (9) 結果は「良好である」となっている。
			工学部 工学研究科	B	・令和6年度授業改善アンケート（工学部及び大学院工学研究科自己点検・評価委員会）結果 ・令和6年度教育内部質保証自己点検評価（モニタリング）(9)学生アンケート分析による学修状況・学修成果の状況の結果	一部教職課程科目がアンケート対象外のため今後要改善。
連合教職開発研究科			A	・カリキュラム・学習状況調査結果		
⑤情報公表	①-1 情報公表の状況	<input type="checkbox"/> 学校教育法施行規則172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> 学修成果に関する情報公表について、大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかをエビデンスとともに説明できているか。 <input type="checkbox"/> 教職課程の自己点検・評価に関して、根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか。	教職課程・教員免許センター	A	・福井大学HP「教員の養成の状況についての情報」 https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/obligation/information/	教員養成スタンダード、理念、CP、DPと教員免許取得状況、就職状況、進学状況を示している。

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部署	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況	
⑥教職指導（学生の受け入れ・学生支援）	⑥-1 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	<input type="checkbox"/> 教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができていないか。 <input type="checkbox"/> 教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか。	教育学部	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育学部HP https://www.f-edu.u-fukui.ac.jp/ 大学案内(教育学部) 基礎資料令和6年度入学状況(教育学部) 	教職課程に関する情報提供については、学部HP大学案内を通じて積極的に実施している。4年のカリキュラムや取得可能な免許状の種類、本学部の特長などの情報を集約しており、受験生はいつでも最新の情報を確認できる。 APにおいて、教育への情熱やコミュニケーション能力等を定義している。一般選抜（前期）では共通テストに加え、専門分野によっては実技・面接を課し、多角的に評価している。	
			連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 連合教職開発研究科HP及びパンフレット 連合教職開発研究科CP、DP 		
	⑥-2 学生に対する履修指導の実施状況	<input type="checkbox"/> 個々の学生の学修状況や教職への意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修への学修意欲を喚起するような適切な履修指導を行っているか。 <input type="checkbox"/> 学生に対する履修指導において履修カルテを適切に活用できているか。		教育学部	A	<ul style="list-style-type: none"> 福井大学教育学部の助言教員選定に関する申合せ 履修カルテの活用方法・状況 	<ul style="list-style-type: none"> 福井大学教育学部の助言教員選定に関する申合せにより、学生一人ひとりに対し「助言教員」を配属し、個別に教職課程の履修モデルの提示や教員採用試験等の相談について丁寧な助言を行っています。 本学部では、履修カルテに相当する「教職学習個人誌」を導入しており、その作成の過程で助言教員による適切な指導を実施しています。学生は学修状況を振り返り、それに基づき助言教員から履修計画等の助言を受ける体制を整えている。
				工学部 工学研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 工学部生免許取得希望者オリエンテーション（1・2年次対象）資料 	1・2年次に、教員免許取得希望者を対象としたオリエンテーションを実施し、工学部での学修との両立を見据えながら、教職課程を計画的に履修できるように丁寧な指導・説明を行っている。 履修カルテ（教職個人誌）は、半数特例の適用により、教職実践演習を履修しない学生が大半を占めており、工学部・工学研究科は該当しない。
				連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 連合教職開発研究科開講式資料 連合教職開発研究科「長期インターンシップの手引き」 	
	⑥-3学生に対する進路指導の実施状況	<input type="checkbox"/> 学生の教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか。		教職課程・教員免許センター	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職ガイダンス年間計画 教員採用試験対策講座等計画 	キャリア支援課が主催となる教職ガイダンスを実施し（年間2回）、時事通信社による講義や、本学の教員（教職開発本部）による情報共有が行われている。また、学生の入職に関する相談・支援だけでなく、教採試験対策の企画・実施（教職開発本部）など年間を通じたキャリア支援体制が十分に整備されている
				教育学部	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職ガイダンス年間計画 教員採用試験対策講座等計画 	
				連合教職開発研究科	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職大学院教員採用試験対策講座計画 	

	自己点検・評価項目	自己点検・評価観点	自己点検・評価実施部局	自己評価	自己点検・評価に係るエビデンス	自己点検・評価項目及び観点に係る状況
⑦関係機関等との連携	⑦-1 教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況および学外の多様な人材の活用状況	□教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実に繋げることができているか。 □学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務家教員やゲストスピーカー等として活用することができているか。	教育学部	A	・令和6年度福井大学教育学部教育実習等運営協議会資料	・教育実習等運営協議会を毎年度4月に開催しており、福井県教育庁をはじめ、各市町教育委員会、教育実習先教員が一堂に会し、教育実習の指導にたいしたい観点、評価方法等、学生の指導を共有している。 ・学外の多様な実務家を積極的に活用している。例えば「地域実践演習」において、福井南高等学校の現任教員をゲストスピーカーとして招へいしている。最新の教育状況について直接講話をいただき、教職への理解を深める。 ③教職志望を上げる取り組みとしては、福井県教育委員会による説明会、入門セミナーにおける校長経験者による講義・演習等、多岐に渡って教職意識を高める取り組みを実施している。
			教職大学院	A	・連合教職開発研究科運営協議会要項 ・令和6年度連合教職開発研究科運営協議会・同教育課程連携協議会資料	
	⑦-2 教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	□教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施に繋げることができているか。 □学校体験活動等、学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか。	教育学部	A	・R6年度学校体験学習の手引き	・教育実習実施校と適切な連携・協力をしている。「教育実習等運営協議会」の開催時に指導方針について各校に共有し、また教育実習委員長や担当教員が直接訪問し、現場の状況把握や情報交換をしている。 ・学校体験学習を行う「教育実習事前事後学習」科目において、学童保育への参加や福井南高等学校での学習支援、授業参観、附属学校校内行事支援など、多様な体験活動メニューを用意しており、教職への理解を深められる体制を整えている。
			工学部 工学研究科	B	・教育実習概要（1. 事前及び事後の指導の内容等、教育実習の内容及び成績評価等、教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等、2. 教育実習におけるハラスメントの防止について、3. 学校体験活動・学校支援ボランティア活動等の取組状況）	本学が設定した「評価の観点」を事前に実習校へ送付し、大学側の意図する指導・評価が実施されるよう連携を図っています。一方で、実習先が遠方であるケースが多く、本学教員による直接の巡回指導が十分にできていない点は検討が必要である。 「心理発達支援プロジェクトI」科目を履修でき、不登校等の困難を抱える児童・生徒に対し、学校や相談室等での学習支援、話し相手を行う活動を行っている。
			教職大学院	A	・連合教職開発研究科運営協議会要項 ・令和6年度連合教職開発研究科運営協議会・同教育課程連携協議会資料 ・連合教職開発研究科「長期インターンシップの手引き」	

◆【教育学部】教員養成フラッグシップ特例を活用したカリキュラムや個別の授業科目に関する教育成果の検証の状況と結果概要

令和4～5年度をかけて、教員養成フラッグシップ特例を活用したカリキュラムの開発とカリキュラムオーバーロードの課題に対応するため、単位数の縮減を含めた教育学部教職課程および卒業要件の見直しを行い、令和6年度より新教育課程を施行したところである。教育成果の検証と評価については、フラッグシップ科目群が学年進行で出そろった令和7年度に予定しており、授業アンケート評価や学生へのインタビュー評価も計画している。評価結果については、令和8年2月開催の「福井大学教員養成フラッグシップシンポジウム」で公表する。次回の教育学部教職課程の自己点検・評価時にその内容を含める予定である。

◆特筆すべき点

教育学部
本学部では、アクティブラーニングとして、多くの授業で学生同士の対話を積極的に取り入れている。講義を通じた教職の専門性の向上と並行しながら、特に教育実習やそれ以外での体験活動（地域実践演習など）における学生個々の経験を学生同士・学生と教員とが共有し、直面した課題を検討する機会を豊富に設定されている。こうした学習は、学生自身の経験・活動を他者の視点から捉え、振り返るための機会を日常的に保証し、学生の授業力や児童・生徒を理解する力量の向上、ひいては教職へのキャリア形成につながるものと評価できる。

工学部

全国で唯一、総合大学として教員養成フラッグシップ大学に指定されている強みを活かし、教育学部との連携・支援体制のもと、工学部においても先導的かつ革新的な教職科目を展開している。これにより、高度な専門性と実践的指導力を兼ね備えた教員免許取得者を継続的に輩出している。

◆改善すべき点や注意すべき点

工学部
②-8 シラバス作成状況の確認や、④-4 授業評価アンケートの実施状況等に関しては、共通開設科目においては、同一授業であっても学部ごとに分類コードが付与されていることから、工学部履修学生分のみがアンケート対象等から漏れる事例が生じている。今後は、コード分類上の差異にかかわらず、同一授業として一体的に管理・運用を行うなど、漏れない対応体制の構築が必要である。